

## 解 説



## 田口玄一博士を仰ぎ見て

## Memories of Dr. Taguchi, My Greatest Tacher

嘉指 伸一\*

Shinichi Kazashi

(聞き手) 水谷 淳之介\*\*

Junnosuke Mizutani

山本 桂一郎\*\*

Keiichiro Yamamoto

早川 幸弘\*\*

Yukihiko Hayakawa

## 1. はじめに

1994年3月に富山県の製造業企業の技術者の有志により「富山品質工学研究会」が設立され、その後北陸品質工学研究会に改称し、現在も毎月事例研究を中心に活動している。その研究会を主宰し牽引しているのが嘉指伸一氏である。嘉指氏は共著で2010年に日本規格協会から『タグチメソッドの源流を探る—田口玄一語録』を上梓し、田口玄一博士(以下田口と記す)のユニークな考え方を広く紹介している。田口を生涯唯一の師と仰ぐ嘉指氏に、田口との交流の思い出についてインタビューした。

## 2. 田口の講義の魅力

聞き手 (以下—) はじめに「田口玄一語録」を執筆された経緯について伺いたい。

嘉指 田口の発想の根底にある考え方は、非常に魅力的なものである。しかし、一般に多くの人たちはそういうことを知らずに、例えば「パラメータ設計」と称して直交表やSN比や数式など道具を使うことが品質工学とかタグチメソッドだと思ってしまうのが残念だった。用意された道具だけを使い表の<sup>おもて</sup>ことだけをやっている、何のためにこれが必要なのかということが分からなくなってくる。田口がいつも

考えていたことの価値をどこかで残しておきたい、われわれだけが知っているということではもったいない、それをみんなに伝えたいという執筆者の思いでそれがきっかけだった。

— 田口の学術的な記録としては『田口玄一論説集』があるが、本書は数式が一つもない本で、どんな分野の人でも、品質工学を知らない人でも田口のユニークな発想に触れることができる本だと思っている。私は授業で文系の学生にこの本の内容のいくつかを紹介して感想文を書いてもらっている。本書には田口のユーモアのあるスピーチも逸話として紹介されていた。

嘉指 アメリカで自動車殿堂入りされた時のお祝いの会のスピーチは大笑いした。

田口は羽織袴姿で演台に登り、「私がこの場に立っているのは、私一人の力ではありません。なぜなら、私は一人で羽織袴着ることができません」と奥様の話をされ、会場は爆笑だった。そういう茶目っ気な一面もある方で、何をやっても何を話されてもいつも魅力的だった。

— 嘉指氏が田口と交流がはじまったきっかけについて伺いたい。

嘉指 私の田口との一番の接点は日本規格協会が毎月開催しているQRG (Quality Research Group)の研究会である。QRGは午前中に田口の講義があり、午後からは研究会メンバーが事例を報告して田口をはじめとするメンバーが議論する研究会である。会場は赤坂にあった昔の日本規格協会の4階の

\* 嘉指技術品質研究所

\*\* 富山高等専門学校